



人間力の向上



教育システム

社会参加型科目



能登半島地震
被災地復興



学外連携活動による人間力向上教育システム — 能登半島地震被災地復興支援を通して —

石川工業高等専門学校における教育システムと学生支援

本校では高等専門学校における教育を学齢にあわせてキャリア観を育成する場として捉え、学生支援を行なっている。本プログラムでは、学生を技術者である前にまず立派な人間として育成し、その上で、社会の中での自分を知り、技術者としての能力を発揮できること、そのために必要な人間としての総合的な基礎力（ここでいう人間力）の向上が狙いとなっている。

教育システム

石川高専は、4つの教育理念を掲げ、この教育理念のもとに、本学に入学した学生は卒業までに学習目標を達成しなければならず、それが卒業までに取り組むべき目標となる。

- 教育理念**
- ・豊かな教養と誠実な人間性を育む
 - ・創造的な能力と意欲を育む
 - ・高度な科学技術に対応できる実践力を育む
 - ・地域社会への関心と国際的な視野を育む

- 学習目標**
- ・技術者として必要な基礎学力と専門的知識を身につける
 - ・意欲的・実践的に、ものづくりや課題の解決に最後まで取り組むことができる
 - ・幅広い視点から自らの立場を理解し、社会や環境に配慮できる
 - ・自分の考えを正しく表現し、公正に意見を交換することができる

学生支援

学習目標達成のために、学生生活の中でさまざまなニーズが生じ、その学生ニーズに対する支援としては、修学、就職、課外活動として生活全般にわたるものが考えられている。

- 企業見学・合宿研修・見学旅行
- 学外実習・長期インターンシップ
- ロボコン・プロコン・デザコン
- キャリアサポートセミナー
- オンリー1プロジェクト
- 生活の記録 など

修学の意義・目標の達成
育成支援

キャリア観の育成

- ・社会の成り立ちと社会が抱える問題の理解
- ・人間関係の構築と規範意識の涵養
- ・自分自身に対する理解

人間力の向上

- ・人間関係を理解し、構築、維持する
- ・問題の状況、背景や原因を理解し、把握する
- ・問題の状況を踏まえ解決策を考え、実行する

学生ニーズ

社会的課題への取り組み
人間的成長・自己実現
社会人としての職業意識の涵養

学生支援プログラムとしての教育システム構築

教育システムへの
組み込み

社会参加型科目群の構築・設定

目指す新たな教育システム

1. インターンシップやボランティア活動などを含む学外実地教育を社会参加型科目群として設定し、必修化をめざす。
2. 社会参加型科目群を各学科、各専攻の通常科目群の実践演習単元として位置づける。また、必要に応じて卒業研究など、相当科目に読み替える。
3. フォーラムや報告会を開催し、学生、教員に成果を還元するとともに、活動を評価する。
4. 第三者を含む新教育システム評価委員会により、教育システムの検討を勧告し改善を図る。



能登半島地震被災地復興支援への取り組み

平成19年3月25日に能登半島地震が起こる。本校は、工学系で最も近い高等教育機関であることより、専門性を活かし学生、教職員一体となって積極的に復旧・被害調査等を行なってきた。

解決すべき諸課題

被災地における災害調査や復興支援、今後の防災対策、まちなみ保全への取り組みは進行中であり、これからも継続されねばならない。

- 倒壊半壊家屋の整理、家屋内の整理
- 廃家廃材の撤去作業
- 故障品の修理、ツールの開発・提供
- 避難所・仮設住宅の住環境整備
- コミュニティ形成維持の支援
- 生活環境における快適性の提供
- メンタル面のケア
- 復興活動のネットワークの拡大 など

学生たちの人間力向上、学校として支援・評価



被災地復興支援

- ・社会的ニーズへの対応
- ・学生の主体的参加による学外との連携活動
- ・学生ニーズとしての位置づけ
- ・持続的な活動へのシステムを構築

社会的ニーズへの対応、新たな試み

学生の人間力向上をめざす教育システムを能登半島地震被災地復興支援を通して構築する。学生は、自治体やNPO、また地域住民等との学外連携活動に参加することにより、地域のニーズを理解し、協調性、自発性、社会性等を身につけ、自己実現と共に、人間力を向上させる。

学外実地教育

学生は、現場に行き被災の実情を知れば、自らの専門分野だけでは解決できない技術的問題に遭遇するはずであり、その解決には必然的に複眼的視野とそれらの基礎理論学習の必要性を認識することになる。

- 機械工学科 花時計の設計・製作と現地への設置
- 電気工学科 太陽光発電支援システム・照明設備製作
- 電子情報工学科 遠隔情報収集発信システム
- 環境都市工学科 復興まちづくりプロジェクト
- 建築学科 環境測定・まちなみ修景プロジェクト

学外：支援、フォーラム、評価委員会

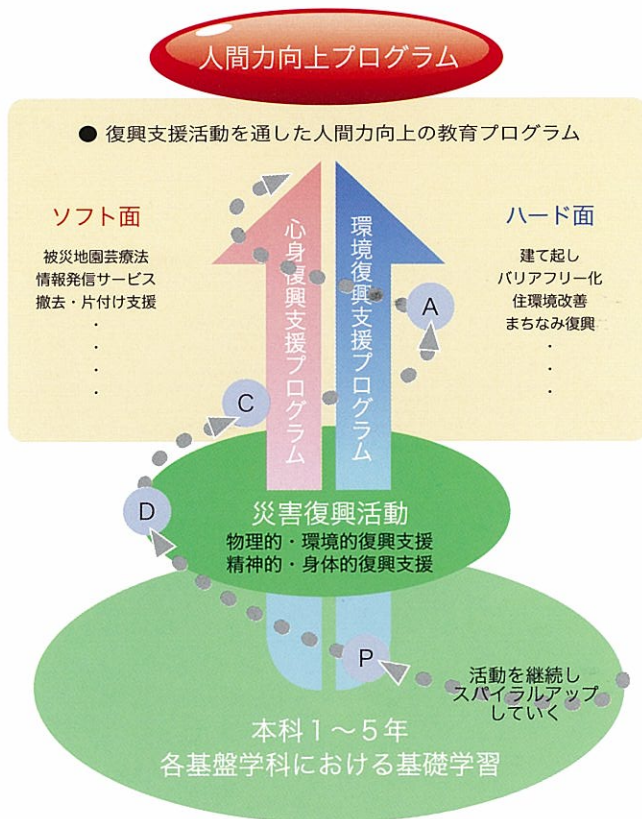
- ・問題の発見とその背景や原因の理解
- ・社会人との接触、コミュニケーション力の向上
- ・社会性や規範意識の向上

学内：発表会、検討会

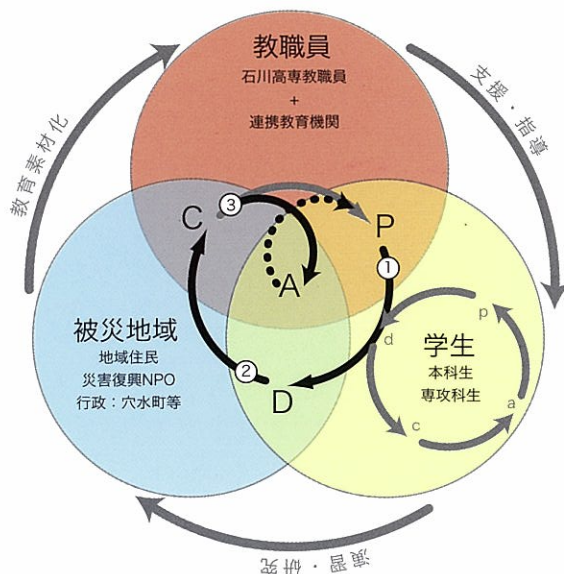
- ・問題の分析と解決のための課題追求
- ・知識の適応力、統合力の養成
- ・成果発表や評価とプレゼンテーション力の向上

自治体やNPO、企業との連携活動、社会に通用する人間力の育成・向上

プログラム全体の取り組み



個々の活動の取り組み



- P: 研究・演習および自主活動など ①: 復興支援活動・研究
D: 被災地域での研究・演習活動 ②: 被災住民・関係者からの意見集約
C: 協力組織からのヒアリング ③: 災害教育プログラムの検討
A: フォーラムの開催

新たな取り組みの独自性

○学外実地教育

さまざまな要素が絡む実際問題を整理し、解決すべき実践的課題を発見、学生自らが主体的に取り組む活動を教育コンテンツとする。学生は、チーム等をつくり修得した専門知識を基に、学外組織や教員の助言を得て解決策を遂行する。

○学外連携活動

他機関および地域住民等と連携しつつ、意向に沿ったハード面、ソフト面での支援策を継続的に実施する。この間に、複眼的見方や異分野の人との協力、現場の方との話し合いなど、実践プロセスを学ぶ。

○ボランティアリテラシーの涵養

学外への自主的活動に加え、教育課程に「ボランティア学」を導入し、ボランティアに際してのルールやマナーを学ぶ。

○PDCAサイクルによる実施

学生が自らできる事を考え活動し、協力組織から、またフォーラム等での成果評価を受け、より改善された活動へとスパイラルアップを図る。

新たな取り組みの有効性

○自己実現と人間力の向上

学外連携活動により他者やコミュニティーへの配慮、また相手の立場の理解等、社会とのコミュニケーションを通して、規範意識と共に人間力が育つ。このことは、既に導入している「生活の記録」もサポートとなる。

○キャリア観の育成

地域等の社会的ニーズを理解し、社会の中で技術者として求められる能力を認識し、発揮、貢献していかねばならないことを自覚する。

○社会的課題の解決

実際問題を解決するための分析力、知識、技術の必要性を理解し、継続的、計画的に取り組む実践力を向上させると共に社会における課題解決の一助となる。